

ゆう ゆう

友-友通信

平成18年1月発行

第87号

新年 明けまして おめでとう ございます

本年もよろしくお願い申し上げます 2006.1

昨年末から寒くなりましたが今年は一段と寒さの厳しい冬が続くのでしょうか？
皆々様、御身体大切に幸多い年になりますように・・・

友-友が加盟している全国老人給食協力会として介護保険制度改正に伴う食事サービスへの施策変更に対する要望書を厚生労働省に提出しました。
利用者の負担増と住民参加活動に対する配慮を求めました。今後も食事サービスの重要性を関係機関や社会に発信し続けます。

今年は高齢者の福祉施策が大きく変わる年でもあります。友-友の活動への影響も小さいものではないと思われます。迅速な対応が求められ忙しい年となりそうです。友、友がこれからも地域に必要なとされる団体になれるよう本年もご支援賜りたくお願い申し上げます。

友-友 感謝のつどい

多くの皆さんに支えられて、友-友は20回目の新年を迎えることができ成人致しました。立ち上げから今日まで本当にたくさんの方々参加をいただきました。今年の秋には設立当初から今日まで関わって下さいました方々と共に「感謝のつどい」を開催する予定です。

感謝のつどい実行委員会で準備を進めてまいります。お手伝い下さいます方、ご連絡下さいませ！

■ YOUYOU YOUYOU YOUYOU YOUYOU YOUYOU YOUYOU YOUYOU ■

特定非営利活動法人友、友 代表理事：小林房子

〒565-0826 吹田市千里万博公園12番1号 パークサイドビル1F

TEL 06-6877-1664 FAX 06-6877-2004

ホームページアドレス：<http://www.senri-youyou.jp/> メールアドレス：info@senri-youyou.jp

吹田市役所職員さん二名の「友-友 体験研修」終了

お二人とも男性の方でしたので少し心配しましたが、案ずることなく「友-友」のスタッフと一緒に仕事をして下さいました。ありがとうございました。

お二人の感想文をご紹介します。

〇さん

今回私は NPO 体験研修ということで特定非営利活動法人「友-友」さんにお世話になってきました。そこで私は高齢者や障害者などへの配食サービス(簡単な調理と配達)とデイサービス(お話相手、散歩同行ほか)の仕事を担当させていただきました。約100人分の食材を切ったり、高齢者とのコミュニケーションをとる事は、私にとって困難に感じられました。しかしスタッフやボランティアの方の指導を参考にしながら、何とか仕事をこなし、良い経験をさせていただいたと思っています。そして利用者の方から感謝の言葉や笑顔などの気持ちをいただき、研修期間中、清々しい気持ちで、帰宅の途についたように思います。

近年我が国は少子高齢化を代表とする多様な社会問題が山積しており、社会は大きな変革の時期を迎えています。そして市民の生きがいや労働意識に対する価値観も多様化していると思います。単に資産などを多く持っているという物的な豊かさのみならず、地域社会とのつながりや貢献といった精神的な豊かさを求めるニーズがあると、今回の研修で感じました。このニーズと高齢者などの社会的弱者の助けを求める声をコーディネートしているのが「友-友」さんであるのでしょう。「友-友」さんが実施されているような地域社会と密接に関わる事業は小規模で地道です。こうした事業は利益を優先する民間企業や公共性を優先しなければならない地方自治体では対応できません。

このような隙間を埋める働きが NPO に期待されています。〈まち〉は、計画的にライフラインや道路を整備し、大型商業施設を建設し有名なテナントを誘致することだけでは不十分です。それに加えて地域社会につながりやコミュニティを形成している〈まち〉が、一生そこに住み続けようと思う大きな要因であると私は考えます。そしてこの大きな要因に取り組まれているのが「友-友」さんです。NPO を取り巻く環境が厳しいことや、組織上の様々な問題のために途中で活動が終わってしまう NPO が多いと聞きます。しかしその状況のなかで「友-友」さんが持っておられるコーディネートのノウハウは、長年苦勞の末、築かれたものです。私個人としては、これからも吹田の〈魅力あるまちづくり〉にご尽力賜りたいと思います。NPO と行政は今後どのように関わっていくべきかは正確にはわかりません。恐らくそれは千差万別であり、私はそれで良いと思います。一番重要なのはコミュニケーション力であると思います。そして年齢や性別などの違う方とコミュニケーションを取るには、話題の「引き出し」が多く必要であると今回の研修で改めて感じました。日常、様々な分野にアンテナを張り、何事に対しても関心を持つ姿勢が大切であると考えます。

白いりぼん運動にご協力をよろしく

—— 普段からの支え合い・助けあう社会へ ——

阪神淡路大震災の被災地では、震災の翌年から追悼、感謝、再成の願いを込めて、白いリボン着用が始まりました。2005年1月、震災10年を期に、地域再生やコミュニティの担い手であるNPOに対する民間募金運動として新しい「白いリボン運動」が開始されました。

この運動は「祈念・感謝・創生」と言う三つのコンセプトのもと、あの時は助けられなかった人々を次の災害には助けられる力を持ちたいという願いを込めて日常的な人々の自治の営みと人と人のつながりを強化するためにNPO法人を中心とした新しい市民セクターを支援する民間募金運動です。また、「白いリボン運動」は地域の民間非営利活動を持続的に支えられるコミュニティ・ファンドの形成を支援しています。

公正な配分と情報公開

集められた募金につきましては、毎年ごとに重点テーマを定めながら、幅広い領域のNPO法人を中心とした市民活動団体に、独立の配分委員会による審査を経て助成されます。また、すべての資金の流れは公認会計士による外部レビューを行い、募金者の信頼に確実に応える公開性と第三者チェックを徹底しています。昨年（2004年）の第1回目は300近い団体・個人の参加で全国37都道府県まで取り組みが広がり、総額630万円のご寄付を頂きました。その配分は、公正な審査を経て2005年4月に40団体に対して400万円の助成を交付いたしました。

この運動へのご協力、お問い合わせは
「友一友」6877-1664へ
宜しく申し上げます。

白いリボン運動のメンバー

友一友は昨年この「白いリボン運動」に参加し、皆様のご協力で332,467円のご寄付をいただきました。

本年も引き続きこの活動に参加し募金運動をしています。どうぞよろしく願い申し上げます。

Fさん

配食サービス、街かどデイハウスにおける声かけや話し合いの大切さ、ボランティアとスタッフの方々の良い雰囲気、明るい環境に非常に感銘を受けました。また、心かようサービスのすばらしさ、運営のむずかしさなど多くの事を学びました。現在の仕事とは直接結びつきませんが「地域活性化」「住民参加」という観点から体験研修できたことは、よかったと思います。

「いっぽ」万歳

〈いっぽ〉の事を地域の新聞で知り、早速入会させていただいたのは、昨年の夏でした。入会金と引き換えにく三千歩〉の通貨をいただきました。「何かできる事は?」と言われ「草引き」と記入しました。私は二十年来、貸農園で百五十坪ほどの畑を夫とともに作っております。暑い時期にはその草引きに追われていますが、この頃では草引きは「悪者を退治する快感」があると思って草に向かっていきます。

その草引きの仕事を八月の末にさせていただくことになりました。暑い折ですので夕方四時から二時間ということで、職を退き毎日家ばかりの夫にも協力してもらって二人で出掛けました。蚊の多い我が家の庭と違い、広々とした芝生のお庭には蚊もいないので快適に二時間休みなく働くことができ、残りの半分は翌日にさせていただき、二人で〈四千八百歩〉をいただきました。私は専業主婦で通してきましたので、この報酬は新鮮な喜びとなりました。

その後、また二軒のお宅からの依頼があり、家にいたら「暑い暑い」とこぼしている所を、いい汗を流させていただきました。

また、ご旅行の際の庭木の水撒きの仕事もさせていただきました。去年の暮れに私達も久しぶりに海外旅行をすることになり、留守中の水撒きとチラシのとりこみをお願いしたら、すぐに手配していただき、安心して旅行に出掛けることができました。地域通貨〈いっぽ〉は藤白台プラザや古江台マーケットでも使えますので、ソツにならないようほとんど使い、そのお金を大事にしまって何か有意義なものに役立てたいです。

もうひとつ。知人で中古のピアノを探している方があり、〈友-友〉さんをお願いしましたところ、〈友-友通信〉に載せていただき、さっそく希望がかなえられ、とても喜んでいただきました。地域の〈駆け込み寺〉のような存在の友-友様の益々のご発展と、〈いっぽ〉の会員さんの増大を祈っております。 古江台 K・S

(助け合いが成立した時に「いっぽ」会への入会手続きができます。)

ご寄付 ありがとうございます

沖様 関根様 松井様 田原様 角田様 森田様 津下様 野村様